



公事以律物取中亦心得

73
6453



73
6453

76
6453
卷

目錄

查正三
成平
精
六
贈



- 一 寺の石上之石出之半出之於時之半
- 二 四代後出之石出之半出之於時之半
- 三 同前年負法及在貸渡之未法取之半
- 四 同貸地出入之半
- 五 同貸渡出入之半
- 六 同前年出入法入用之半
- 七 取上之取之半
- 八 馬堂之取之半
- 九 名取之取之半
- 十 同前年取之半
- 十一 少取之取之半
- 十二 同前年取之半
- 十三 同前年取之半

十四

仍倒置死人

十五

捨子遊子

十六

芝口北を傷

十七

浦に杖を折

十八

捨綱を拾

十九

落馬を治

二十

上及全國書外

志水子
山崎次人

一 子少不...
大...
...

一 代官...
...

一 心...
...

一 一...
...

右...
...

自西丁... 丁酉年... 丁酉年二月十日
... 丁酉年二月十日

二
... 丁酉年二月十日

一
... 丁酉年二月十日

... 丁酉年二月十日

一
... 丁酉年二月十日

中分をいふ中分は禮文に及ぶ内分九
に依りて中分也

一 支那の古の書物に外西事考は他
他に於て著るに及ぶ内分九
録ありてありて中分也
不考するに及ぶ内分九
ありて中分也

一 支那の古の書物に外西事考は他
他に於て著るに及ぶ内分九
録ありてありて中分也
不考するに及ぶ内分九
ありて中分也

一 支那の古の書物に外西事考は他
他に於て著るに及ぶ内分九
録ありてありて中分也
不考するに及ぶ内分九
ありて中分也

三
四十年真法及元貨物全書序

一 四十年真法及元貨物全書序
一 四十年真法及元貨物全書序
一 四十年真法及元貨物全書序

一 西河... 中... 改...

一 西河... 改...

一 西河... 改...

一 西河... 改...

一 西河... 改...

一 西河... 改...

一 西河... 改...

一 西河... 改...

一 西河... 改...

一 西河... 改...

一 西河... 改...

一 西河... 改...

一 西河... 改...

一 西河... 改...

一 西河... 改...

一 西河... 改...

一 西河... 改...

一 西河... 改...

一 西河... 改...

一 西河... 改...

一 西河... 改...

一 西河... 改...

此は信房のてまのりてまのり解す
其勝りて其の双方のりてまのり
若し其勝りてまのりてまのり
其人もまのりてまのりてまのり
其のりてまのりてまのりてまのり
其のりてまのりてまのりてまのり
其のりてまのりてまのりてまのり
其のりてまのりてまのりてまのり

一 信房のりてまのりてまのり
其のりてまのりてまのりてまのり
其のりてまのりてまのりてまのり
其のりてまのりてまのりてまのり

一 信房のりてまのりてまのり
其のりてまのりてまのりてまのり
其のりてまのりてまのりてまのり
其のりてまのりてまのりてまのり

此は信房のりてまのりてまのり
其のりてまのりてまのりてまのり

一 信房のりてまのりてまのり
其のりてまのりてまのりてまのり
其のりてまのりてまのりてまのり
其のりてまのりてまのりてまのり

一 信房のりてまのりてまのり
其のりてまのりてまのりてまのり
其のりてまのりてまのりてまのり
其のりてまのりてまのりてまのり

一 信房のりてまのりてまのり
其のりてまのりてまのりてまのり
其のりてまのりてまのりてまのり
其のりてまのりてまのりてまのり

信令之類、少多先後、文之類、遠近、
中、外、何、等、事、也、
一、

一、
一、

一、
一、

一、
一、

一、
一、

一、
一、

一、
一、

一、
一、

一、
一、

一、
一、

一、
一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

但此部亦有未詳之處
 其合と云ふは伊能忠尚の遺著に於ては
 畿内・越前・美濃の三國に於ては
 此の部を以て古部と稱するが如し
 其の合と云ふは伊能忠尚の遺著に於ては
 畿内・越前・美濃の三國に於ては
 此の部を以て古部と稱するが如し

一 主人の事
 此の部は伊能忠尚の遺著に於ては
 畿内・越前・美濃の三國に於ては
 此の部を以て古部と稱するが如し

伊能忠尚の遺著

一 堂上の事
 此の部は伊能忠尚の遺著に於ては
 畿内・越前・美濃の三國に於ては
 此の部を以て古部と稱するが如し

伊能忠尚の遺著

右の事亦又能書其言人の中
 には月二日紀元前も其の合詳説も

五回古傳の事撰出所消込を尋
し候てらぬらあ申

一 支那書の内より大傳の中及び諸書に於て
右傳の事記し居る人敷ありて其傳の事
く右傳の事記し居る人敷ありて其傳の事
傳文の事記し居る人敷ありて其傳の事
了ぬる事記し居る人敷ありて其傳の事

一 此書の内より大傳の中及び諸書に於て

右傳の事記し居る人敷ありて其傳の事
了ぬる事記し居る人敷ありて其傳の事

九

右傳の事記し居る人敷ありて其傳の事



一 支那書の内より大傳の中及び諸書に於て
右傳の事記し居る人敷ありて其傳の事
了ぬる事記し居る人敷ありて其傳の事
傳文の事記し居る人敷ありて其傳の事
了ぬる事記し居る人敷ありて其傳の事

給ふ事記し居る人敷ありて其傳の事

送歌有由而命は是死下の最後也
ワレは是身は皆天一尊と返願して
子御も此御の如く世向く世平也
此御の如くありては則ち世平也

一 心持違ふと日持方違ふとの事
此御の如くは然りては子御も然り
て是御の如くは是御の如くは
此御の如くは是御の如くは

一 魚草有くは魚草なくは又二也
此御の如くは魚草有くは魚草
なくは又二也此御の如くは
魚草有くは魚草なくは又二也

一 此御の如くは是御の如くは
此御の如くは是御の如くは

一 但高難性かゝるは是御の如くは
此御の如くは是御の如くは
此御の如くは是御の如くは
此御の如くは是御の如くは

一 夫は是御の如くは是御の如くは
此御の如くは是御の如くは
此御の如くは是御の如くは

三條高子市口 河見くあふた
地以林村人先結成之とあるは
三條高子市口用迄に於ては
高子市口先の河見高子市口
之を以て河見高子市口
高子市口先の河見高子市口
高子市口先の河見高子市口
高子市口先の河見高子市口

一 三條高子市口 河見くあふた
地以林村人先結成之とあるは
三條高子市口用迄に於ては
高子市口先の河見高子市口
之を以て河見高子市口
高子市口先の河見高子市口
高子市口先の河見高子市口
高子市口先の河見高子市口

一 三條高子市口 河見くあふた
地以林村人先結成之とあるは
三條高子市口用迄に於ては
高子市口先の河見高子市口
之を以て河見高子市口
高子市口先の河見高子市口
高子市口先の河見高子市口
高子市口先の河見高子市口

そとと致さ痛く居りし大昔に
阿らうわ中と難しはつれに
此等中流に下りてくや東と西世
よりなる事也其に九寸を十寸
とすといふ事

そとともお存りひき動かせもあつて
居るに而く動かしをせんと居るを
結繩解くはしりて居るに
しと右と三夜色居るを居る事
但ししと居るに居るに居る事

あやしく居るに居るに居る事
右に二夜居るに居るに居る事
中々居るに居るに居るに居る事
居るに居るに居るに居る事

あやしく居るに居るに居る事

一 冷味一併に白居るに居るに居る事
居るに居るに居るに居る事

一 冷味一併に白居るに居るに居る事
居るに居るに居るに居る事

一 冷味一併に白居るに居るに居る事
居るに居るに居るに居る事

一 冷味一併に白居るに居るに居る事
居るに居るに居るに居る事

一 弘治五年四月廿一日 出合 九歳 辰刻 正
以美水取 中 中 中 中

一 吟味 有 建 三 五 亦 然 何 日 辰 十 日 辰

子 知 了 何 辰 日 辰 何 亦 建 辰 九 年

と 亦 子 知 了 何 辰 日 辰 何 亦 建 辰 九 年

と 日 辰 三 日 辰 何 亦 建 辰 九 年

日 辰 三 日 辰 何 亦 建 辰 九 年

日 辰 三 日 辰 何 亦 建 辰 九 年

一 弘治五年四月廿一日 出合 九歳 辰刻 正

弘治五年四月廿一日 出合 九歳 辰刻 正

十二

公事出入吟味 四月廿一日 出合 九歳 辰刻 正

一 公事出入吟味 四月廿一日 出合 九歳 辰刻 正

公事出入吟味 四月廿一日 出合 九歳 辰刻 正

公事出入吟味 四月廿一日 出合 九歳 辰刻 正

公事出入吟味 四月廿一日 出合 九歳 辰刻 正

公事出入吟味 四月廿一日 出合 九歳 辰刻 正

公事出入吟味 四月廿一日 出合 九歳 辰刻 正

公事出入吟味 四月廿一日 出合 九歳 辰刻 正

公事出入吟味 四月廿一日 出合 九歳 辰刻 正

公事出入吟味 四月廿一日 出合 九歳 辰刻 正

公事出入吟味 四月廿一日 出合 九歳 辰刻 正

その體は九所ありて其の最も奇なるは
其の中心にありて其の中心にありて
丁也

昔は天地人未だ出ずるは體もく
をとりて其の體もく其の體もく
其の體もく其の體もく其の體もく
其の體もく其の體もく其の體もく

古記の同義死人之事

一 古記の同義死人之事
其の體もく其の體もく其の體もく
其の體もく其の體もく其の體もく
其の體もく其の體もく其の體もく

又古記の同義死人之事
其の體もく其の體もく其の體もく

其の體もく其の體もく其の體もく
其の體もく其の體もく其の體もく
其の體もく其の體もく其の體もく
其の體もく其の體もく其の體もく

其の體もく其の體もく其の體もく
其の體もく其の體もく其の體もく
其の體もく其の體もく其の體もく
其の體もく其の體もく其の體もく

以紙信書法未了故本不為一...
 然く西不七及中速死難く七各集...
 之也吾原中書法以人所建文
 九く抄八備る天龍元年...
 物之也...
 同く速札...
 漸成...
 一 病人...

一 他...
 三...
 一...

一...

但...
 一...
 一...

右...
 中...

十五 珍子...

一...

但珍石居たふありとて以味居也
一 汝と名同い

右の系記書見 寛政の世年五月六日
早稲を完治の事各許は有也

此は
此は
此は

十九

一 此は
此は
此は

一 他
此は

一 此は
此は

一 此は
此は

一 此は
此は

一 此は
此は

一 此は
此は

右の系記書見 寛政の世年五月六日
早稲を完治の事各許は有也





